

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2490700081		
法人名	社会福祉法人 太陽の里		
事業所名	グループホームなごやか		
所在地	松阪市垣鼻町1638-15		
自己評価作成日	平成25年9月5日	評価結果市町提出日	平成25年11月20日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaisokensaku.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kihon=true&amp;JigvosvoCd=2490700081-00&amp;PrefCd=24&amp;VersionCd=022">http://www.kaisokensaku.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kihon=true&amp;JigvosvoCd=2490700081-00&amp;PrefCd=24&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 25 年 9 月 18 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者が”なごやか”な雰囲気、過ごしていただけるように心がけ、家族や顔馴染みの方々にいつでも来ていただき、ゆったり過ごして頂けるようにしている。地域の方とも交流を図り、行事の時には参加を呼びかけ、地域の行事にも参加させて頂き、また個別の外出支援も積極的に行う事で楽しんでいただいたり、なごやか農園と一緒に作っていただくなど、家庭的で温かい雰囲気を作っている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、松阪高校等が隣接する文教地域に立地し、幼・小・中・高校生との交流機会を得ている。グループホームの同一敷地内に、小規模多機能ホームと認知症対応型デイサービスが併設し、3事業所が共同で地域住民の協力や参加を得て、餅つき大会や夏祭りの行事を開催している。定期的に障害者作業所で製造したお菓子の販売があり、ティーパーティーを開催している。また、協力医療機関との連携を密にし、入居者の受診や入院・リハビリ等が受けられるようにしている。ホームの存在が、市の高齢福祉課や医師会等関係機関に周知されているため、入居や認知症介護に関する相談を多く受けている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を目に見える所に掲示し、毎朝申し送り時に全員で理念を唱和する事で共有に努めている。	入居者と職員は、ホームで共に生活する仲間・家族であると管理者と職員は認識し、理念である「なごやかで家庭的な温かい雰囲気があるホーム」を目指して日々実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の清掃活動(草引き・溝掃除)に参加。地域の方にボランティアに来て頂いたり、地域の保育園の行事にも参加させて頂き、交流をしている。	餅つき大会や夏祭りを、自治会や老人会の協力と参加を得て開催し、地域住民と入居者が交流している。また、定期的に2か所の障害者授産施設よりお菓子の販売があり、ティーパーティーを開いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座を開催したり、包括支援センターと協力し、認知症の支援や啓発の寸劇をしたりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回、利用者状況や取り組み状況報告し、意見を頂いている。頂いた意見については検討を行いサービス向上につなげるようにしている。	運営推進会議に於いて、協力医療機関の院長より、骨折にて退院直後の入居者に対する通院リハビリの提案があり、病院の送迎を得て実行し、症状改善と日常動作の向上を図ることができた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	グループホーム部会や、運営推進会議にて担当者とお互いの意見を話す機会をもっている。また、運営推進会議でも個別ケアについて伝え、意見なども頂いている。	管理者は、市役所の介護高齢課をほぼ毎日訪れ、入居者の介護認定更新申請代行や事故報告書等の提出、その他、事業内容や入居者に関する相談をしている。市のグループホーム部会に出席して意見交換をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所で委員会を作り、月に1回会議を開催し、合同会議などで身体拘束廃止について啓発している。禁止項目について掲示をし、全員に理解してもらっている。	3事業所合同で身体拘束廃止委員会を作り、「身体拘束廃止マニュアル」を作成、月に1回会議を開会し、禁止項目の実施状況を検証している。会議の内容は全職員に伝達して啓発を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内で勉強会を実施し、虐待に関しての理解を深めることで、事業所内での虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内で権利擁護や成年後見制度について勉強会を実施し、職員の権利擁護や成年後見制度への理解を深めるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、重要事項の説明を行い、同意を得てから契約締結している。重度化した際の対応・急変時の対応については特に重点的に行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情・相談箱を設置し、頂いた意見については検討する様にしている。また、運営推進会議に家族が出席していただき、市の職員や地域の方と意見交換する機会を設けている。	年1回10月に入居者と家族と職員の食事会を開催し、家族から意見や要望を伺っており、今年は、日帰りバス旅行を予定している。遠方の家族には、電話や毎月請求書を発送する際に近況報告をし要望等を伺っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回の会議にて意見や提案を聞き、管理者だけで決めずに管理者・職員同士で話しあい、今後について反映できるように努めている。また、職員通用口に意見箱を設置している。	職員は、朝の申し送りや毎月の職員会議に出席して意見を提言しており、管理者は個別面接を実施して、個々の職員の思いを把握している。また、スキルアップ支援チームは、研修案内等を行い、職員の資質向上を支援している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自の事情にあわせ勤務形態や勤務変更を調整し、職員個々が働きやすい環境を作るようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で、スキルアップチームという研修等を担当するチームを立ち上げ、内部研修の実施や外部研修の参加を促している。また、新人にたいしても教育担当者を付け、介護技術等の向上に努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会に参加し、各施設の管理者と意見交換し、相互の支援について話しあい、サービス向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	普段からコミュニケーションをとりながら、本人の不安や要望を汲み取り、信頼関係を築けるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込み時に、家族の困っている事や要望などを聞き、できる範囲で協力し希望を取り入れたサービスを提供できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の意見をよく聞いて、必要としている支援を話しあい、場合によっては他機関につなげるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯たたみや食器拭き等できる事を探し、役割を持っていただく事や、農園なども一緒にして頂く事で共に過ごす関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に1度手紙で様子を知らせたり、面会時に日常の様子や報告や家族の思いを聞くなどして、支援の方向なども話し、共に支えていく関係を作るようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に自由に来ていただいたり、本人が行っていた美容室や店などに職員と出かけ、馴染みの関係が続く様になっている。	日頃から入居者のしたい事や行きたい所をよく聴いて、実現できるように配慮し、最近では近所のコーヒー店へ出かけている。併設デイサービス利用者と入居者の交友関係の継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクや行事などで交流を持てるよう努めたり、仲の良い利用者同士で外出支援を行い、利用者同士の関係を注意深く見守りながら、孤立しないように関わっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設にや病院に移られた後も、必要に応じて相談に乗ったり、ご家族の経過のフォローに努めるようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	継続的に本人の希望や意向を聞くようにしている。また、ケアカンファレンス時に担当者その他職員からも本人の希望等意見をもらい、把握に努めている。	担当者は、センター方式のEシートを活用し、入居者の思いや希望を聴き、ケアに反映させている。意思疎通が困難な入居者には、家族や他の職員に代弁を求め、共にケア方法を検討し実践している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に、本人や家族から面談にて情報収集し、過去の生活等を把握に努めている。入居後も本人や家族とコミュニケーションをとりながら、把握するように心がけている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録を細かくし、1人1人の経過や心身状態を把握するとともに、本人の気分や体調で、体操やレクリエーションなど自由に参加していただき、記録している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の要望をもとに、会議にてカンファレンスを行い職員で意見を出し合い、Eシートを活用しながら本人がより良く暮らす為にプランを作成している。	ケアマネが3ヶ月毎にモニタリングを実施し、本人・家族の意見や要望を聴き、担当者がEシートで把握した本人の思いや希望と照合して、カンファレンスで他の職員の意見を聴き、計画を作成している。	介護計画書の支援内容の項目毎にモニタリングを行い、評価結果を計画の見直しに反映できる仕組みの様式を、検討して欲しい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌は職員に確認を義務付けている。また、日々のケース記録を元に定期的にカンファレンスにて見直しを行い、情報を共有できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	基本的には病院受診は家族に行って頂いているが、できる限り柔軟に対応している。また、足の痛みがある方には整骨院を利用していただくなど、その時々ニーズに対応しているようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を開催し、地域の資源の把握に努めると共に、近隣自治体や保育園だけでなく、インフォーマルな関係も活用し、豊かな暮らしが出来るように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関だけでなく、本人のかかりつけ医を利用し、希望される方には他の医療機関を利用してもらっている。	現在8名は協力医療機関の医師が主治医で、2週間毎に往診を受け、1名は、従来からのかかりつけ医を主治医とし、家族が受診介助している。認知症の治療は、2名が精神科にて治療を継続している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホームには看護師はいないが、隣接事業所の看護師に協力してもらい、その都度相談し適切な看護が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は介護サマリーを提出し、施設での生活の様子がわかる様に情報提供し、入院中は担当のケースワーカーと連絡を取り合いスムーズに退院出来る様に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化した場合、対応が困難な事について話しをしている。終末期ケアは行っていない為、重度化されている方は早急に家族と話しあい、協力医とも連携をとり支援している。	入居時に家族に対して、管理者が口頭で、重度化や終末期の状態について説明をしている。医療対応を要する終末期ケアは実施していないため、最寄りの医療機関や協力病院を紹介する等の支援を提供することで同意を得ている。	思い込みや混乱を避けるためにも、終末期ケアに関するホームとしての指針を作成し、家族に提示して、同意書を交わす方法も検討して欲しい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署による救急救命講習、法人内での救急の研修に参加している。また、緊急手順の書類なども職員に読んでもらっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署の協力を得て訓練を行っている。また、防災委員会をたちあげ、地震・津波について避難方法について伝達している。昼間に夜間想定訓練を実施し、災害対策を行っている。	3事業所合同で、防災委員会を中心に、避難訓練と消防署の指導で消火訓練を実施している。最寄りの避難所である中学校まで、入居者を引率して歩いてかけつける訓練を実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	援助が必要な時にはさりげないケアを心がけ、自尊心を傷つけないような声掛けを行うと共に、その方一人ひとりにあった声かけをしている。	職員は入居者に挨拶をするときは、「〇〇さん」と、名前を呼んでから言葉掛けをするとともに、敬語で会話することを励行している。居室は入居者の家と認識し、入室する際には必ず戸をノックしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	まず、本人の訴えを傾聴し、職員の意見を押し付けないようにして、本人の意志を尊重していくように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の生活の流れはできているが、可能な限り本人の希望を優先し、柔軟に対応するように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの美容室にいったり、入浴後に美容液を使ってもらっている。また、本人が希望されれば、洋服を一緒に買いに行ったりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に買い物に行ったり、食事の下準備や片付け等を手伝ってもらっている。職員も利用者と一緒に同じ物を食べる様にしている。	各自が、馴染みの茶碗と湯呑を自宅から持参して、食事が楽しめるように配慮している。食材は、毎週月・水・金曜日に職員と入居者が最寄りのスーパーへ買い物に行き購入している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は、法人の栄養士に目を通してもらった物を使用し、また、本人の状態にあわせて刻み食などにも対応。水分量をチェックし、水分の少ない方には本人の好む物を飲んでもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に声掛け・見守りし自分でできる方にはしてもらっている。必要な方は介助にて、義歯の手入れをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、排泄リズムを把握して誘導・介助を行ったり、見守りは行うが自力でできる事はしてもらい、現在の状態を維持できるように努めている。	現在、車いす利用者1名が、紙おむつにて全介助し、7名がリハビリパンツを着用し、1名は布パンツを着用している。各自の排泄パターンを把握して、個別にトイレへ誘い、排泄の自立支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝体操後に牛乳を飲んでもらったり、便秘気味の方には水分摂取の声掛けや個々に運動をしてもらっている。また、必要に応じて医療機関から薬を出していただき対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には午前に入浴してもらっているが、本人の気分や体調にあわせ午後に入浴するなど対応している。また、希望があれば都度入浴したり、気分が乗らない時は無理に入れずに時間をずらしたり、次の日にするなどしている。	午前中に入浴に誘い、気分等で入浴を拒む入居者には、午後に再度入浴を誘っている。また、家族に、入浴を勧める手紙を書いてもらう等の協力を得て入浴する等工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の睡眠リズムを把握し、気持ち良く休んで頂けるよう支援している。眠れない方には温かい飲み物を飲んで頂いたり、会話をするなどしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに薬剤情報を挟んであり、いつでも確認できるようにしている。薬の変更があった時は申し送りにて職員に伝え、必要があれば申し送りに注意事項なども記載し、伝達している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	仕事を手伝う事で張り合いがもてる方には、食器拭きをして頂いたり、塗り絵が好きな方には声かけし、塗り絵をしてもらったりする事で支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は本人の希望を聞き、散歩に出かけたりしている。また、個別で喫茶店などに食べに行ったり、希望される方には買い物にいつてもらっている。	入居者に希望を聴いて、最寄りの神社等へ散歩に出かけたり、職員と食材の買い物に行っている。年間を通じて、初詣・観梅・桜観・こいのぼり見物等毎月外出行事を計画し、25人乗りのバスで出掛けている。希望者には、個別の外出支援も実施している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には事務所で管理しているが、希望される方には持って頂き、一緒に買い物に行った時にはご本人に支払いをして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される方には、職員が電話を掛けて本人と話しをして頂くようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天窓があり、天気の良い日は開放して、外気や光を取り入れるようにしている。中庭には季節の花を植えて季節を感じてもらえるようにしている。	ホールの掃出し窓が広くて、中庭に通じていて自然と一体感が得られる。中庭にベンチを置いて、日光浴をする等活用法を職員が検討中である。キッチンと食堂が対面式であり、調理する職員と入居者が会話しながら、配膳等の手伝いが出来る。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間は広く設けてあり、一人一人思い思いに過ごしてもらえるようにソファや椅子の配置に気を付けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物や本人の置きたい物等が持ち込まれ居心地よく安心して生活が送れるようにしている。	各居室には、ベッドと洗面台と押入れが設置されている。布団等の寝具と、身の回りの用具は、自宅から馴染みの物を持ち込んで、安心して居心地良く生活できるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室に表札や目印を付け、空間認知できやすいように工夫している。		